



Desert Wind

◆◆ 苦しみを幸せに変える神 ◆◆

LVJCC 牧師: 鶴田健次

私たちの人生には試練や苦難が付き物です。試練を経験しない人はいません。いろんな問題の中にいるとき、この問題さえなくなれば幸せになれるのに、と誰もが考えます。ウィローブリーク教会のジョン・オートバーク牧師は、『水の上を歩きなければ舟から出よ』という本の中で、(快適すぎる環境は危険だ)と書いておられます。その根拠として、このような興味深いデータを紹介しています。

アメーバを全くストレスのない完璧な環境の中に置きます。理想的な温度と湿度を保ち、豊かな栄養を与えました。さあ、このアメーバはどうなったでしょう。栄養満点で、どんどん繁殖したでしょうか。実は、アメーバは死んでしまったのです。オートバーク牧師は、(すべての生物に共通することは、生きるためにはチャレンジが必要だということだ)と言っています。人間も同じで、生きるために空気や食物が必要なように、変化や適応、またチャレンジが必要なのです。

① 苦しみは私たちの間違いを正す

私たちは、苦しみに会って初めて、自分の考えや生き方を見つめ直し、そこに間違ったものを認め、悔い改めるようになります。事が順調に運んでいるときは、たとえ間違った考えや生き方であっても、人は悔い改める気にはなりません。しかし、自分の進む道が険しくなると、どこに問題の原因があるのか、何が間違っていたのかを考えるようになり、悔い改めるべき問題に気付かされていくのです。

誰にとっても、自分の問題を認めることは辛いことであり、勇気のいることです。心を素直にしなければできません。しかし、そう簡単に素直になれないところに私たち人間の問題があります。そこで神は、そんな私たちに苦しみを与えて、自分の問題

を認めざるを得ない状況に置かれることがあるのです。「苦しみに会う前には、私はあやまちを犯しました。しかし今はあなたのことを守ります。」(詩篇 119:67)

② 苦しみは私たちの自我が砕く

苦しみは、しばしば、私たちの頑なな心を砕くのに有益です。しかし、心が砕かれることは、頭で考えるほど簡単ではありません。私たちの心を砕くのは、私たちの努力や心がけではなく、苦しみによるといのが聖書の教えです。

聖書は、苦しみを、人の心を精錬する熔鉱炉であると教えています。金や銀を熔鉱炉に入れ、ドロドロに溶かして、そこから不純物を取り除き、純粋な金、銀を得ることができるように、神は、私たちが苦しみの炉に入れて、私たちの自我を砕き、私たちが不純物を取り除かれるのです。そして、私たちは砕かれた程度によって成熟度が違ってきます。

③ 苦しみは神との出会いをもたらす

「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました」(詩篇 119:71) この言葉は、試練が神様に出会う機会となることを教えています。実際、この言葉の通り、試練や苦難を通して神様を知る事が出来たという人はたくさんいます。

困った状況の中で、しばしば人は、それまで経験したことのない真剣な思いで自分を見つめ、自分の問題と取り組む事をするものです。その問題が大きければ大きいほど、人は真剣に物事を考えるようになります。物質的に豊か過ぎて、裸の自分を見る事が出来なかった者が、すべての物を失った時に、裸の自分と向き合い、人間の本質に触れる事が出来るようになるのです。また、自分の力だけを頼りにしていた傲慢な者も、手に負えない大きな問題を経験し、徹底した葛藤の中で自分の無力さを知らされ謙遜にならざるを得ないのです。そういう中で、人は生ける神を認めるようになるのです。

DREAMS COME TRUE

- ✦ 教会堂の建設
- ✦ 敬老ホームの設立
- ✦ 幼稚園の設立

お祈りのリクエスト

- 日本の家族の救いのために
- 各スモールグループのオイコス伝道のために
- 入門者クラスのために (田中兄、垂津子姉、彩沙姉、ミミ姉、和江姉)
- 英語部の働きのために
- ユースミニストリー、サンデースクールのために
- 癒しの祈り: 恵理奈ちゃん、倉田一徳さんの脳腫瘍、シメオン兄、小林豊兄、神崎先生、植木ケン兄、新井雅之兄の癌、中村裕二先生の直腸癌、藤永君江姉の癌、Simeon 兄の癌、山口スカイ君の心臓

Desert Wind では、ご意見・質問等何でも受け付けております。
lvjccdw@hotmail.co.jp
発行人: 鶴田健次
編集人: 松岡みどり



編集室 便り

昔のことを振り返って考えてみた。

私は小学生の頃、大人は知恵も知識もお金も自信もあって、充実した人生を送っているものだと思っていた。だから早く大人になって迷いの無い人生を精一杯生きたいと思っていた。子供は知識が乏しく、物事を決定できる正しさの基準も定まっていなかった。大人の未完成の形だと思っていた。しかし大人になって初めて、パーフェクトな人間はいないと知った。人間はいつだって悩んだり、迷ったり、失敗したり後悔したりを繰り返す。しかしイエス・キリストが私の人生に来て下さってから、全てが変わりだした。永遠の命が約束されて死の恐れが消えた。正しさの基準を全能の主置き、委ねる事を学んだ。聖書により生きる意味と目的を見出し、苦難は成長に必要な不可欠な要素と知り、感謝の気持ちが生まれた。何より我が信じる主が愛の神様だと知った時、誇らしい気持ちになった。

万軍の主はわれらと共におられる

証し / Marina Suehiro

「万軍の主はわれらと共におられる」(詩篇46:7)。これは私にとってとても大切であり、複雑な意味を持つ御言葉です。皆さんは「何故複雑なのか？」と思うでしょうが、私には理由があります。私が孤独や、また主が私と共におられないと感じる時はいつでも神様がどのようにして私を教会と神様の元へ戻されたのかを思い出します。そして私は決して一人ではないし、神様はいつでも私と共におられることを思い出します。これから私に与えられた神の力について皆さんにお証したいと思えます。

私は生まれてから7歳になるまで、とても良い人生を送っていました。他の子供と同じように、母と父がいてとても幸せでした。その頃私は本当のことを知るにはとても幼かったのですが、今振り返るとその辺りから私の家族に変化が起こり始めました。

私たちは週末になると父の医者に会うためカリフォルニアへと車で通うようになりました。母はいつも私に、父には Heart(心臓?)の病気があるからそれが良くなるために行くのだと言いました。でも私には母が言う「Heart」の病気の意味が分かりませんでした。2ヶ月間その様にして通いましたが、私には父が良くなっているようには見えませんでした。しかし父は私の前では決して病気の様子を見せませんでした。その頃神様の事を知っていたら良かったのといつも思います。もしかしたら事態は違っていたかもしれないと。

私が7歳になってちょうど1ヵ月後、私はいつものようにテレビのアニメ番組を見ていました。その日は土曜日でも早朝だったので両親はまだ寝ていました。私は少し退屈だったので両親の様子を見に行くと父が母と一緒にベッドで寝てないことに気付く、びっくりして母を起こし、父がいない事を伝えました。母は心配した様子もなく犬の散歩に行っているのではないかといいましたが、犬は母の足元で寝ていました。それで母はようやく起き上がり、あたりを探し始めました。私は父のトラックが外の駐車場にあるか確認しに行きました。車はありませんでしたが、その時は別に何も思いませんでした。なぜなら

悪い思いがよぎったのは母の悲鳴を聞いた時だったからです。

それから警察が来て私は犬と食パンの袋と一緒に私の部屋に押し込まれました。私がドアからこっそり覗き見ると母は泣いていました。警察が母に父が死んだ事を告げていたからです。この後すぐ、私はカリフォルニアへ通っていた本当の理由が、父がうつ病でその治療のためだった事を知りました。私の父は本当に「Heart」(心)の病気でした。ただ私が「Heart」の本当の意味が分からなかっただけだったのです。

それから2週間後、父の葬儀がありました。母はこの何週間の間ずっと泣き続けていましたが、私は泣きませんでした。ショックを受けていたのだと思います。それから冷たくなって死んでしまった父がお棺の中に横たわっているのを見た時、初めて泣きました。皆が私に「大丈夫だよ」と言ってくれましたが、「黙ってて」というのが本心でした。ただ何も聞きたくありませんでした。

その1週間後、母は私と教会へ行きたいと言いましたが、私は本当は行きたくありませんでした。それでも母は私を連れて行こうとし、そうしようとする母を嫌いました。でも振り返って思えば、それが人生の転機になるとは全く思いませんでした。教会へ初めて行った日、私はこれから先何が起ころうとも教会を離れることはないだろうと思いました。教会の皆さんはとても優しく、そこはまるで私の「セカンド・ホーム」の様でした。それから数ヵ月後、私は洗礼を受けました。決して強制ではなく、神様から時の到来を告げられたからでした。

今、この事を振り返ってみると、私と母は神様によって生まれ変わりました。私がイエス様をよく知らなかった頃は、理解するのは少し複雑でしたけれども、神はこれらの全てをご計画され、私たちを神様と教会へと連れ戻して下さいました。この父の自殺から7年間、イエス様は日々絶えずそばで私を導き、助けて下さいました。その中で私はイエス様の愛を知り、私は決して1人ではなかった事を知りました。それに対する私の応答は、イエス様を愛し続けること、それは今も変わりません。たとえ過去の経験がどうであろうと私の心、魂、そして私自身は今もイエス様のものです。私は今新たな始まりの中にいるのです。万軍の主、イエス様に感謝します。